



# 52 nd CRC Seminar

## 山口 信次郎 氏

独) 理化学研究所・植物科学研究センター

山口信次郎氏は、1996年に東京大学大学院を修了後、理化学研究所及びデューク大学等で植物の成長や形態を制御する微量低分子信号物質（植物ホルモン）が、植物体内でどのように作られ（合成）、どのように作用するのか（受容、信号伝達）について研究されています。今回は、山口先生らが発見した新規植物ホルモンとして機能するテルペノイド化合物「ストリゴラクトン」の機能についてお話ししていただきます。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

## ストリゴラクトン

～植物の無機栄養応答に関わる新しいホルモン～

Strigolactone: a new plant hormone that regulates plant architecture  
in response to inorganic nutrient availability

時間 : 2011年3月14日（月）15:00～16:30

場所 : 農学部2番講義室

ストリゴラクトンは、1966年に根寄生植物ストライガの発芽刺激物質としてワタの根滲出液中から発見されたテルペノイド化合物であり、その後、植物の養分吸収を助けるアーバスキュラー菌根菌との共生シグナルとして働くことが明らかになった。さらに最近、ストリゴラクトンは植物の内生のホルモンとして地上部の枝分かれをコントロールしていることが明らかになった。本セミナーでは、ストリゴラクトンの多様な生物機能について紹介し、植物の無機栄養の利用・獲得戦略との関連性について考察する。また、ストリゴラクトン関連遺伝子やケミカルを利用した植物生産性向上のためのアプローチについて考える。

問合先 : Abidur Rahman (abidur@iwate-u.ac.jp)